

# 来・ぶらり



《滴翠園十勝》龍谷大学図書館所蔵

卷子本、一卷。  
滴翠園十勝は西本願寺の境内にある飛雲閣(国宝)の建つ名勝庭園のことである。飛雲閣は豊臣秀吉の聚楽第に建てられた後に、伏見城から西本願寺へと移されたものと考えられている。この庭園には、飛雲閣をはじめ、滄浪池・竜背橋・踏花塙・胡蝶亭・嘯月坡・黄鶴台・艶雪林・醒眠泉・青蓮の十の景勝があり、滴翠園十勝と称した。

## 墨痕あざやかな安重根の絶筆

木坂 順一郎

1997年6月5日、繁田實造図書館長(当時)・不二川公勝総務局長・金守武夫図書館部長と私の4人は、岡山県笠岡市の浄心寺を訪れた。文学部の卒業生で前住職の津田康道師から、母校へ寄話したいとお申し出があった安重根の絶筆などを頂戴するためであった。

安重根(1879~1910)は、1909年10月26日に中国東北部のハルビン駅で伊藤博文(元首相・初代韓国統監)を射殺した韓国の独立運動家で、翌年3月26日旅順監獄で処刑されたが、韓国と朝鮮民主主義人民共和国では今日でも独立運動の英雄とたたえられている人物である。旅順で教誨師をしていた津田海純師(康道師の大叔父)が持ち帰られたと聞く。三幅の書の文章は『論語』と『中庸』からとられ、のびやかな達筆は彼が当時一流の知識人であったことを示しており、私は深い感銘をうけた。アジア・太平洋戦争中に私が国民学校で教えられた安重根は、「伊藤公を撃った凶漢」であり、歴史観の変転を思わずにはいられなかった。

この見事な絶筆をみなさんにお目にかけたいのだが、深草図書館には展観施設がないので、一日も早く展観施設をつくり、彼の絶筆が大宮・深草・瀬田の各図書館で展観されることを切望するしだいである。  
(図書館長)

### 目次

墨痕あざやかな安重根の絶筆 図書館長 木坂 順一郎	1
龍谷大学大宮図書館 和漢古典籍分類目録・貴重書解題ついに完成!	2
深草図書館発 安重根の貴重な資料、寄託される	4
瀬田図書館にLIB-net登場!	6
「書齋」としての図書館 (文学研究科 真宗学専攻) 城 弘 教	8
九年目の図書館 (文学研究科 東洋史学専攻) 天 野 弘 之	

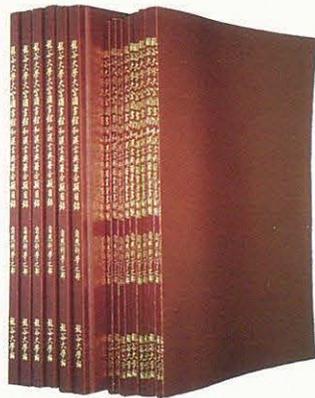
# 和漢古典籍分類目録・ 貴重書解題(自然科学の部)ついに完成!

この度、龍谷大学図書館[代表 繁田實造館長(当時)]から『龍谷大学大宮図書館和漢古典籍分類目録』および『龍谷大学大宮図書館和漢古典籍貴重書解題』の自然科学編を出版した。

これは、<sup>しやじだいふんこ</sup>寫字臺文庫<sup>(注1)</sup>の蔵書をはじめ、大宮図書館が所蔵する自然科学関係の和漢古典籍を網羅したものである。8月27日には出版記念記者会見も行われた。

字臺本を中心としたこれらの書籍を調査・保存することとなった。平成6年3月には大宮図書館古典籍等保存調査委員会内規を制定し、同委員会の下に自然科学関係の専門学者に

よるワーキンググループ(グループ長：山田慶兒 龍谷大学教授)を編成した。そして平成6年9月から2年有余にわたり、医学、薬学、本草学、天文学、暦学、数学等の古典籍が精力的に調査された。平成8年度には、その調査結果を反映して、和漢書目録と貴重書解題の編集作業が本格化し、そして、この度の出版へとたどりついた。



目録出版記念記者会見(8月27日)

## ■目録作成の背景

平成5年4月、当時の図書館長であった池田重良理工学部教授が、機会あって大宮図書館の地下書庫に入られたところ、<sup>せいみかいそう</sup>『舍密開宗』の初版本が、一般の図書となんら区別されることなく配架されているのを目にしたことをきっかけにして、詳しく調査してみると約1000点もの自然科学系の古い書籍が書庫に眠っていることが判明した。そこで、大学としてはこの機会に、自然科学系の書籍にとどまらず、350年余り昔から引き継がれてきた寫



## ■自然分野全貌判明と貴重書の発見

この度自然分野の調査を終え、同目録が出版されたことによって、次のことが判明した。

1. 龍谷大学図書館が所蔵する寫字臺文庫を含む自然科学分野の、古典籍約1000点・約5000冊

におよぶ全貌が明かとなった。

- 最終的には37点におよぶ貴重書が発見された。(これら貴重書の具体的内容については、茨城大学教授 真柳 誠氏によって写真入りで解題を執筆していただき、全てを紹介した。)特に、『日用本草』<sup>にちようほんぞう</sup>は日本・中国大陸・台湾とも同版の所蔵記録は見当たらない稀覯本である。
- 松岡玄達<sup>まつおかげんたつ</sup>の自筆本が10点も発見され、かつて不明であった彼の若い時代における師匠の浅井周伯との師弟関係と勉学研究が明らかになった。特に若い時代の一括したノートの出現はこれがはじめてである。

## ■ 目録の概要

この目録の内容についてであるが、収録範囲は自然科学分野の書で、和書は江戸時代、漢籍は清朝時代までのものが対象となっている。

構成は「和漢書之部」「漢籍(子部)之部」と大きく分かれ、その中で分類別に細かく分かれている。巻末には五十音順の書名索引と人名索引がついている。

編成・配列については、著録・分類ともに『内閣文庫国書分類目録』『同漢籍分類目録』におおむね依っており、目録の記載は上段には書名、中段には別書名等、巻数、編著者名(別名)、刊写年、刊写者名、注記等が書かれ、下段には請求記号、冊数、文庫名が書かれている。

## ■ 将来へ向けての課題

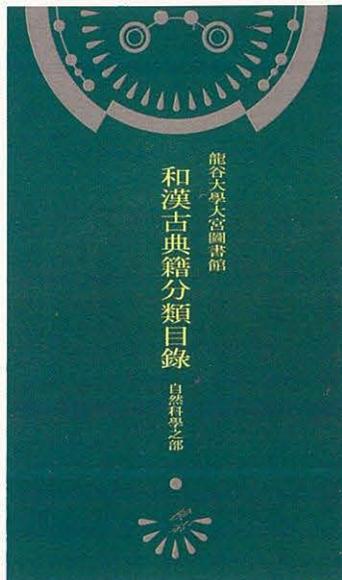
この度の古典籍目録と貴重書解題の発行は、本願寺歴代宗主の蔵書「寫字臺文庫」をはじめ、龍谷大学大宮図書館に永年にわたって伝えられてきた学問的蓄積を社会に公開し、還元する第1歩となり、このことの意義は大きい。大宮図書館としては引き続き芸能分野・哲学分野を調査をしており、毎年1冊ずつこれらの目録を出版し、数年後には全分野の目録を1冊にまとめて出版したいと考えている。

また、大宮図書館では「古典籍目録データ検索システム」のインターネット上での公開を平成10年度前期頃に予定している。この検索システムは

書名、人名、請求記号、解題の内容など、いかなる項目からも検索できる全文検索が可能で、さらには旧漢字、簡体文字等の従来表示できなかった文字についても表示可能となる。貴重書解題の内容と写真も公開される。

このような古典籍目録検索シ

テムのWeb上での公開はいまのところ前例がない。さらに、大宮図書館ではこれに合わせて、古典籍目録検索CD-ROMの製作も予定している。



古典籍目録データ検索システム  
初期画面画像

### 注1) 寫字臺文庫

西本願寺第20世宗主・広如上人によって名付けられた。織・豊時代から明治初期まで本願寺歴代宗主の蒐集された約30,000点の文庫であり、明治になって龍谷大学図書館に寄贈されたものである。

### 注2) 松岡玄達

1668~1746生、江戸中期の本草学者、生まれは京都。儒学を山崎闇斎・伊藤仁齋に学ぶ。

### <古典籍調査専門委員会委員(自然科学の部)>

山田 慶 兒 (龍谷大学教授)  
歌 野 博 (北陸先端科学技術大学院大学)  
櫻 井 謙 介 (塩野義製薬K・K主任研究員)  
白 杉 悦 雄 (東北芸術工科大学助教授)  
高 島 文 一 (明治鍼灸大学名誉教授)  
橋 本 萬 平 (神戸大学名誉教授)  
真 柳 誠 (茨城大学教授)  
矢 野 道 雄 (京都産業大学教授)  
山 本 重 雄 (龍谷大学図書館)  
梁 嶸 (北京中醫藥大学副教授)  
廖 育 群 (中国科学院自然科学研究所教授)

### <企画・調整>

青 木 正 範 (龍谷大学大宮図書館課長)

# 安重根の貴重な

韓国の独立運動家で、伊藤博文を暗殺したことで知られる安重根(アン・ジュンゴン)の絶筆や処刑前の写真など貴重な資料87点が6月、岡山県笠岡市浄心寺の津田康道氏から本学図書館に寄託されました。ここではこれらの資料を紹介するとともに、事件や安重根の人物像についても触れてみたいと思います。

## 伊藤博文暗殺事件とは？

1909年(明治42年)10月26日午前9時、満州視察中の伊藤博文(初代韓国統監)がハルビン駅に到着。到着を待っていたロシアの蔵相ココフツェフは車中まで伊藤を出迎え、挨拶をかわした後、自ら先導に立って案内した。伊藤はプラットフォームでロシア軍守備隊を閲兵し、各国領事団の人々と挨拶をかわして、さらに日本人歓迎者の方に向かって数歩歩み始めたとき、ロシア兵の隊列の間から「斬髪洋装の青年」が進み出て、短銃を伊藤に向け数弾発射した。短銃を発射した青年は「コリア・ウラー(韓国万歳)」と叫びながら逮捕され、伊藤は車中に運び込まれたが、急所に命中しており、まもなく息絶えた。



ハルビン駅頭の伊藤博文(5番)



安重根像  
左手薬指は断指同盟の際切り落とした

## 安重根の人物像

逮捕された青年、安重根は黄海道海州の名門両班(伝統ある特権的な文武の官僚階級)の出身で当時32歳。18歳の時にカトリックに入信し、洗礼名を多黙(トーマス)と名乗るようになる。1905年の第2次日韓協約で韓国が日本の保護国になったことに憤慨し、義兵運動に参加した。その後ウラジオストックに亡命し、1908年に断指同盟を同志11名と結成して国外での愛国啓蒙運動に専念していた。

事件後、安重根は旅順監獄に送られ、公判では終始義兵であることを強調し、暗殺の理由として日韓協約の締結や韓国皇帝の廃位など「伊藤博文の罪条15ヵ条」を上げ、伊藤を非難した。翌年3月26日死刑に処せられたが、安重根と話し、その人柄に魅せられる日本人も少なくなかったという。現在でも韓国では独立運動の英雄として尊敬されている。

# 資料、寄託される

今回寄託された資料は、康道氏の大叔父にあたり、明治40年代に旅順監獄で教誨師をしていた津田海純氏が収集したものとみられています。同寺で庫裏を改修した際発見されました。以来、同寺で大切に保管されていましたが、貴重な資料の保全と歴史研究に役立てるため、本学図書館に寄託されることになりました。

資料は安重根が監獄で書いた「不仁者不可以久處約」など3点の書をはじめ、処刑2日前に弟、神父と面会する場面など安重根の写真10点と日露戦争開戦前後の中国東北部や朝鮮の風景、ロシア軍の将軍の写真など当時の資料74点です。本学ではこれらの資料を活かしていくために、歴史・法政研究者の研究資料や矯正保護課程の資料として活用するほか、機会をみて一般公開することも考えています。これらの寄託資料をきっかけに、日韓相互の理解と友好がより深まることを願うものです。



津田海純像

監獄内で書いた書  
「不仁者不可以久處約」(不仁者は以て久しく約に處(を)る可からず。論語里仁編)

不仁者不可以久處約

庚戌三月 旅順監獄中 大韓島人 安重根 書



処刑2日前に弟、神父と面会する安重根

# 瀬田図書館に LIB-net 登場!

## LIB-netってなに?

『図書館(LIBRARY)内外のNETWORKを自由(LIBERTY)に利用してもらいたい』と願いを込めて、LIB-net(リブネット)と名付けました。

インターネット端末として、ホームページを検索したり、瀬田図書館所蔵のCD-ROM(後述のCD-ROM一覧参照)を無料で視聴できます。

※なお、館内で「アダルト情報の検索」、「ショッピング申し込み等の契約行為」、「ソフトのダウンロード」、「既存のシステム設定改ざん」を行うことはご遠慮ください。

### ◆初期画面のメニューから、見たいデータベース名をクリックするだけ。



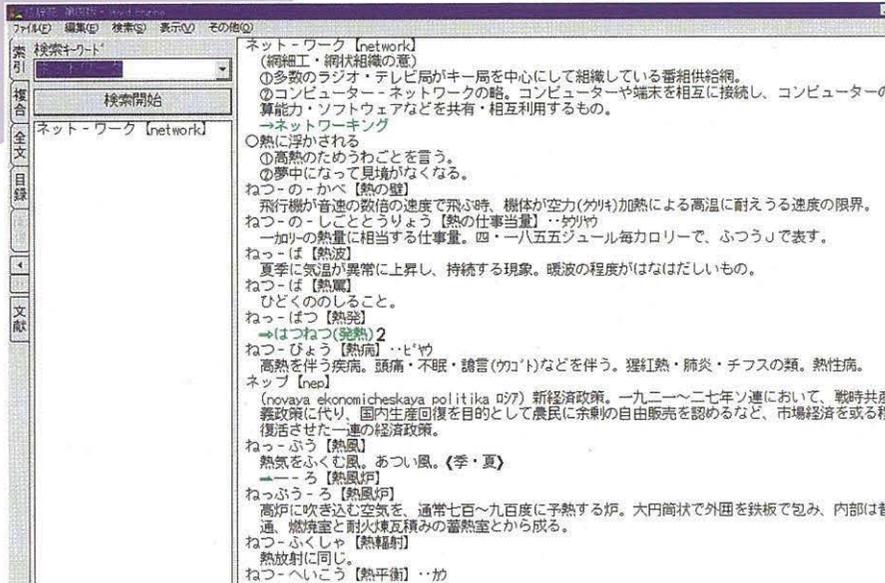
(NSCDNet/新日本製鐵より)

## 【サーバー内CD-ROM一覧】

内容は随時更新されます。

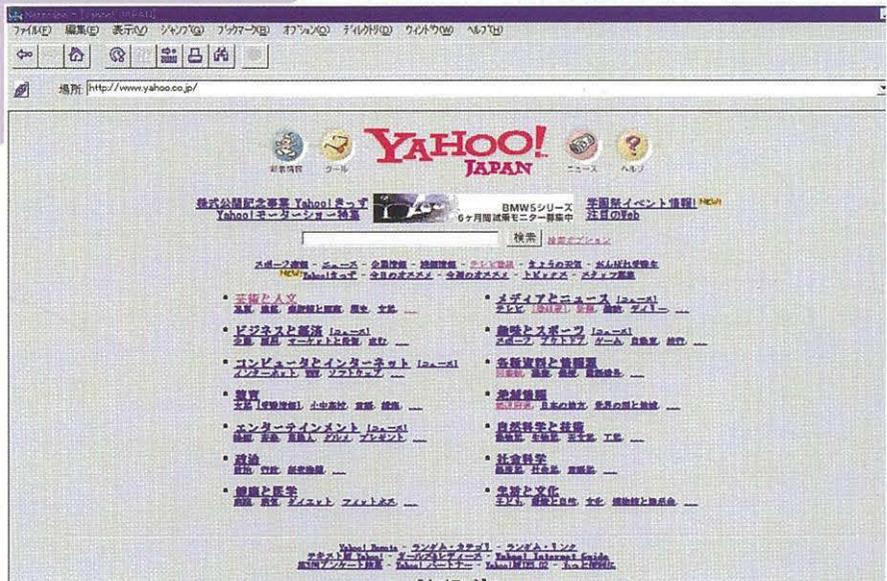
- |                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| ① 季刊 書誌ナビ          | ⑩ 雑誌記事索引(国立国会図書館)        |
| ② 岩波電子広辞苑 第四版      | ⑪ 手話マスター(入門編)            |
| ③ 辞典盤 国語辞典         | ⑫ 理科年表                   |
| ④ 辞典盤 新英和・和英中辞典    | ⑬ ★The NewYork Times     |
| ⑤ 辞典盤 知恵蔵          | ⑭ ★Washington Post       |
| ⑥ 辞典盤 マイペディア       | ⑮ World Atlas 世界地図       |
| ⑦ CD-ROM版 経済新語辞典   | ⑯ ★Le Monde diplomatique |
| ⑧ 日本文化を英語で語ろう 現代の旅 | ⑰ 阪神大震災                  |
| ⑨ 日本文化を英語で語ろう 心の旅  | (★印はDOS-V機でのみ見ることができます。) |

## ◆広辞苑で検索すると……



(電子広辞苑／岩波書店より)

## ◆ホームページも見ることができます！



(YAHOOより)

## ホームページの Q & A

Q

ルーブル美術館のホームページから中世の画家の画像をコピーして自分のホームページに貼り付けて利用して良いですか？

A

絵画の著作権は50年で消滅していますが、画家以外の権利関係がないか確認しましょう。また、絵画の著作者とホームページの著作者はまったく別のものですから、注意が必要です！

※ホームページにおける著作権問題(毎日コミュニケーションズ 1997年)より抜粋

## 「書齋」としての図書館

城 弘 教

それまで、図書館とはまるで縁がなかった私が毎日のように足を運ぶようになったのは、ちょうど4回生の秋だったように思う。卒論の提出を間近に控えながらも勉強が手につかなかった私は、何とか机に向かうために閲覧室を利用していたのだった。暖房が心地よく効き、夕方を過ぎれば空席が目立ち静まり返るそこは、怠惰な私を勉強に追いやるには実に快適な空間だったのだ。落ちついた雰囲気の中に独り身を置くと、なにがしかの意欲めいたものが湧いてきたものだ。実際に図書館にいただけでいるんなことに関心が出てきたし、また正しい利用法を学ぶことにもなった。図書の検索は、コンピューターで行うが、未遡及の図書はカードで引くこと。書庫には開架と閉架があり、閉架の図書はカウンターで請求しなければならぬことなど、今となっては当たり前に見えることでも当時としては新しい発見だった。その後、大学院に進むことになったのも、その頃に図書館が発掘してくれた知的好奇心によるところは大きい気がする。

図書館を表すLibraryの語には、個人の書庫や書齋という意味も含まれると聞いたことがある。図書館が公共の場であり、蔵書が共有の財産であることは言うまでもない。しかし、私と図書館の出会いがまさに「書齋」的關係であったように、これからも個人的な関係を続けてゆきたいと思う。

(文学研究科 真宗学専攻)

## 九年目の図書館

天野 弘 之

私は、学部時代から通じて九年間図書館を利用している。平成元年からだから、ずいぶん長い間利用してきたものだと思う。この頃、図書館は、かなり変わった。一番変わったのは、コンピューター登録された本が激増した事である。私が入学した当時は、コンピューター登録された本は、まだまだ少なく、カードボックスをひっくり返すのが習慣になっていた。今では当たり前のように使っているコンピューターも使い方がよく分からず、未遡及の本ばかり借りていたものである。それが今では、ポタン一つで、その本がどこにあり、今借りる事が出来るのかどうか、ひと目で分かるし、又、その本の作者・出版社・発行年を確認する事も出来るのである。

九年もたつと、利用の仕方も変わってくる。最初のうちは、ただ書庫の中を歩き回って、面白いと思った本を取り出して読むという能率の悪い使い方だった。今では、端末検索をして開架・閉架の図書をパッパッと借り出し、場合によっては、他大学に所蔵調査をしてもらい、あったら紹介状片手に出向くようになった。図書館の機能を使えば、これだけの事が出来るのだという事が利用していくうちに分かるようになった。

しかし、九年たっても変わらないものもある。それは居心地の良さだ。又、ここには自分が何の為に大学に行くのかを自覚させてくれるものが秘められているし、勉強するには最高の環境である。私が大学に行くと、まず、足を向ける所は、いつも図書館である。

(文学研究科 東洋史学専攻)

インターネットにて図書館情報公開中!

蔵書検索や各館開館日程表ほか役立つ情報満載!

龍谷大学ホームページ

URL <http://www.ryukoku.ac.jp/>

龍谷大学図書館報『来・ぶらり』第17号

1997年12月発行

編集・発行 龍谷大学図書館

〒612 京都市伏見区深草塚本町67

☎075-642-1111(大代)